

黒沢
(作図:)

まもなく水も涸れ、岩壁につきあたった。

さては見過したかと思ひ、引き返して沼をさがす。沼は左岸の小沢を小し入ったところにあつた。沼の水は冷たい。水底には藻が青くつき、気味悪い感じだ。橋までもどり、林道を歩いて男沼へ出る。(記・塚 治)

〔タイム〕

黒沢出合八・三五―橋一〇・二〇―岩壁一一・三〇―沼一三・三〇―橋一四・二〇

小倉川

一九七五年八月十七日

◆天気(曇り後雨)

福島発六時。小雨が途中から本降りとなった。蒲谷地



小倉川・F1

登山口から少し入った所まで車で送ってもらう。途中で道をまちがえたりして沢登り開始八時〇五分。一時やんでいた雨がまた降り出してきた。

はじめは何の変化もない沢で飛石伝いに進む。石の間を落ちる二〜三層の小滝があるのみ。九時一〇分頃鉱山跡らしき所を通り、そこから二〇分後やっと五層の滝に出会う。「滝らしい滝があつた。」と喜び写真をとる。その後七層の滝は左岸を直登。滝らしい滝とはこの二つ位のものだった。源流も近くなると涸沢となり、大きな岩がゴロゴロしていて急に高度をかせぐ。

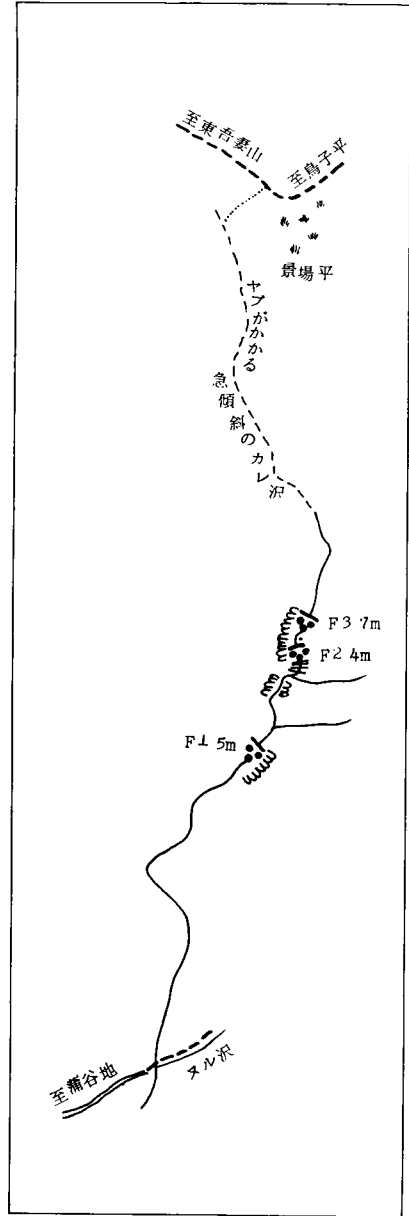
そして次はヤブこぎ。ガスがかかり、景場平が確認できず通り過ぎてしまう。東吾妻に向っていることが確認できたので、そのままヤブこぎを続け登山道に出る。山頂より姥ヶ原を経て浄土平へ。

(記・海)

(タイム)

出合八〇五―沢終了二一・二〇―東吾妻山頂一一・

五〇



小倉川 (作図:)

大倉川

一九七六年八月二十九日

◆天気(晴)

前夜橋の下にツェルトを張ってビバーク。四時起床で明るくなつてすぐに出かける。前方に中吾妻を見ながら変化のない河原を進んでいく。六時四五分砂防ダムにつく。このダムは川下が材木で組み立てられた親しみのわくダムである。右岸の山中にけい石場をみる。そこまで